

鎌倉市周辺におけるタイワンリスの近況

小林 峯 生

Recent Status of the Formosan Squirrel (*Callosciurus erythraeus taiwanensis*) in Kamakura City and Its Adjacent Area

Mineo KOBAYASHI

はじめに

台湾を原産地とするタイワンリス *Callosciurus erythraeus taiwanensis* の野生化が、本邦で初めて確認されたのは1964年頃の伊豆大島で、動物園で飼育中のものが逃走して増殖し、ツバキの実、ミズキなどに著しい被害を見るようになった(今泉, 1969)。その後、侵入経路は明らかでないが、各方面からタイワンリスの野生化が報じられるようになり、現在では伊豆大島のほかに、東京都上野公園、神奈川県鎌倉市(横浜市野毛山公園にも生息しているが、これは意識的に放たれたものである)、兵庫県(岩坂・谷川, 1981)などに生息している。

鎌倉市に見られるタイワンリスについては小原(1972)、中村(1977)、小林(1983)、TAMURA & MIYASHITA(1984)などが、生態、分布について報じているが、いずれも断片的で、生態については現在、都立大学の田村典子氏が、本格的に調査をおこなっている段階である。

鎌倉市に生息するタイワンリスの侵入経路については二説がある。その一つは1951年に伊豆大島から江ノ島に移し飼育中の数頭が、いつごろか年代は定かでないが逃走し、野生化したというものと、もう一つは鎌倉市の住民が飼育していたものが逃走し、野生化したという説である。

先にも述べたように、鎌倉市に生息するタイワンリスの実態は、いまま不明な点が多いのが実情であるが、10年ほど前から多くの個体が目につくようになったといわれている。また鎌倉市に隣接する逗子や横浜市金沢区、戸塚区、港南区の隣接地帯の環境は、鎌倉市のタイワンリスの生息環境に似ているにもかかわらず、いまのところ生息が確認されていないという。

そこで、1983年に鎌倉市を中心に多くの読者層をもっている地方新聞「鎌倉朝日」に鎌倉に生息するタイワンリスとタヌキについて解説記事を書いた際、タイワンリスの分布情報を集めるために、リスの情報をお寄せくださいという次のような依頼文を掲載させていただいた。

「リスの分布状態を解明するために、本紙をかりて情報提供をお願いすることにいたしました。リスの姿を見たことのある方々から、何時頃、どこで見たかという情報をお寄せくださるようお願いいたします」。

この記事に対する反響は思いのほか大きく、電話によるもの31件、郵送によるもの22件、計53件の情報を得ることができた。情報提供者のほとんどは、鎌倉市に住居する方々で、1件だけ藤沢市片瀬から寄せられている。

今回の調査は分布状態を主に調べることを目的としたため、分布に関する情報の提供以外はお願いしなかったが、餌づけ、移動行動、被害状況、食物についても数件の情報を得ることができた。そこで、集まった情報のいくつかを原文のまま紹介しながら、分布、餌づけ、移動行動、被害状況、食物の各項に渡って、鎌倉市に生息するタイワンリスの近況をまとめてみた。

本文に先きだち、情報をお寄せくださった多くの方々に、心から感謝する次第である。

分 布

分布について寄せられた情報は53件で、それに基づき得た分布図は図1のとおりである。情報収集依頼文を掲載させていただいた「鎌倉朝日」は鎌倉市、藤沢市、逗子市、横浜市の西部などに読者をもっている。しかし、タイワンリスを目撃したという情報は、藤沢

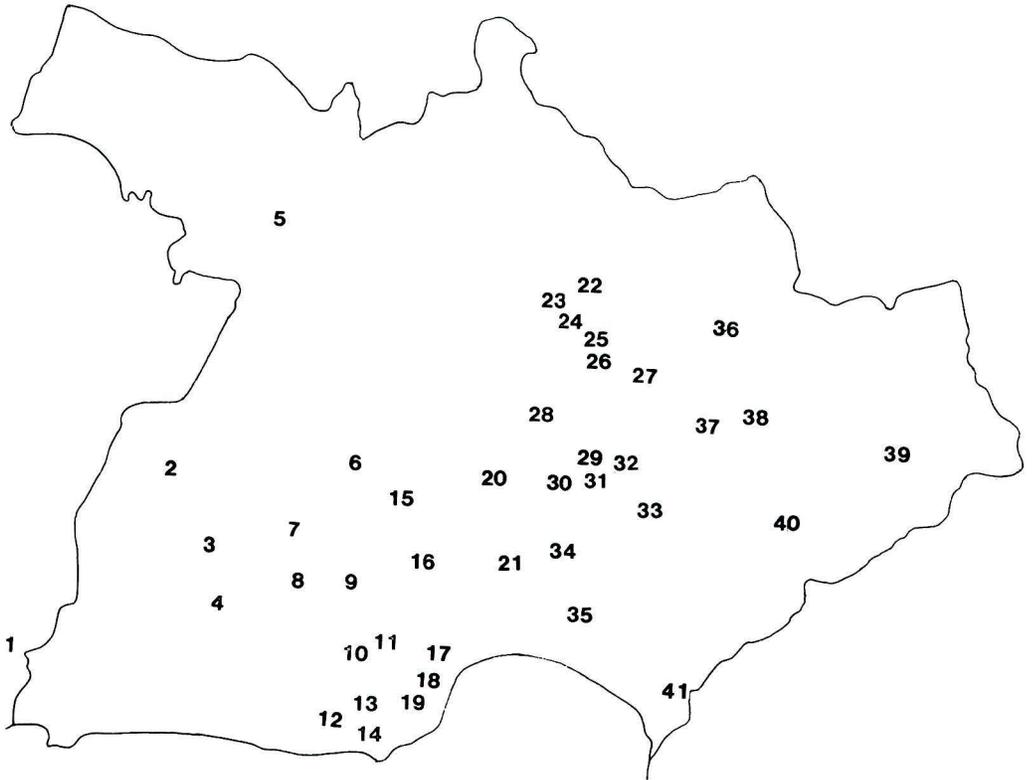


図1 情報で得たリスの生息地点

1. 藤沢市片瀬目白山3-34, 2. 手広558, 3. 腰越猫池, 4. 津1179, 5. フラワーセンター, 6. 常盤梶原口6, 7. 笛田1929, 8. 笛田1628, 9. 鎌倉山, 10. 極楽寺3-2, 11. 極楽寺3, 12. 稲村ヶ崎4, 13. 稲村ヶ崎2, 14. 稲村ヶ崎1, 15. 常盤493, 16. 長谷切り通し, 17. 坂の下5, 18. 極楽町1, 19. 極楽町1, 20. 佐助稲荷, 21. 笹目町10, 22. 六国見山, 23. 円親寺, 24. 山ノ内450, 25. 山ノ内明月院, 26. 山ノ内上野, 27. 建長寺, 28. 海蔵寺, 29. 扇ヶ谷1, 30. 佐助1, 31. 佐助1, 32. 雪ノ下, 33. 小町小町通り, 34. 御成小学校, 35. 由ヶ浜2, 36. 二階堂百八やぐら, 37. 西御門2, 39. 鎌倉宮, 40. 浄明寺2, 41. 材木座1。

市片瀬にすむ方の1件を除いて、すべてが鎌倉市の方々によるものである。鎌倉市内では稲村ヶ崎、笛田、佐助、扇ヶ谷、山ノ内、西御門、雪ノ下の各地域に集中し、藤沢市に隣接する西鎌倉、津西、七里ヶ浜、横浜市西部に隣接する大船、十二所、逗子市に隣接する浄明寺、大町、材木座の各地からの情報は各1～2件のみである。鎌倉市で、タイワンリスが生息する主な地域の植生は、中村(1977)によれば宮脇(1973)がヤブコウジースタジイ群集としてまとめられているところだという。このような植物群集は、今回の調査で情報が得られなかった地域にも残されているにもかかわらず、なぜ目撃した人がいないのか(タイワンリスなど

に興味がないのかも知れないが)、大いに疑問である。この結果を1984年4月13日の朝日新聞夕刊の「もしもし不通。かわいい犯人へ」。リスが電話線をかじるの記事に掲載された分布図(図2)と比較すると、分布状況は、今回の結果(図1)の方が、1年先におこなったものであるともかわらず、図2より西部に分布の広がりが見られる。これらのことから、鎌倉市に生息する分布状況を把握するには、今後もお詳細に調査を続ける必要がある。今後の分布状況の推移に注目したい。

移動行動

鎌倉市街地では、タイワンリスが飛び石的に生息し

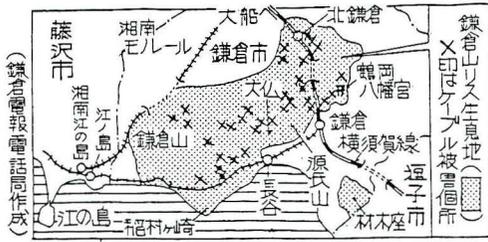


図2 鎌倉市におけるタイワンリスの分布域と電話ケーブル被害10箇所(朝日新聞より)

ていることが知られている。この現象は電線を渡るといふ情報が13件も寄せられたことから推定して、主に電線に伝って移動し生息するものと思われる。

情報①「リス。我が家の庭に5、6年前から殆ど毎日来ております。川喜多邸の山から電線、木をつたわって車道を渡って来ます(雪の下)。

情報②「木から電線を伝い、屋根を歩いている時もあります。木のあいている所はとび移りますので早いこと、とてもつかまえることは出来ません」(極楽寺)。

情報③「私が以前から気にしておりますことは、駅前前のそば屋の庭一円覚寺入口にもリスが現れるので、この店の主人も庭にエサ台を作ってパン屑やうどんの屑などを置いていると、野鳥といっしょにリスが現れるといひます。やはり多い時は3匹ぐらい来るそうです。問題はこの「そば屋」のある場所に、リスがどうやって到達するか、また、どうしてここに行くがです。この地域の北側は横須賀線の線路ですし、南側は鎌倉街道の道路、西側は北鎌倉駅前広場、東側は道路をへだてて池、さらに駐車場となって、リスにとっては全く隔離された区域になります。そば屋の主人とも話してみましたが、リスは電話線ケーブルを伝って、この地域に入ることは間違いないようです。小生宅の周辺でも数10mの長さの電線をリスが綱渡りすることは珍らしくありません。リスが交通のはげしい道路の空中をどのような目的で綱渡りをするか、あるいは10m以上手前から、そこに餌があることを知る能力があるか、一応興味ある問題です」(山ノ内)。

餌づけ

佐助稲荷で、タイワンリスを餌づけして観光客の目を楽しませていることは、よく知られている。今回の調査では13件の餌づけ情報が寄せられた。餌づけしている箇所が意外に多いことがわかった。

情報①。「私の住居は鎌倉に隣接する片瀬目白山ですが、栗鼠の姿が樹々の間に見かけるので、7、8年前から餌づけをしたら、近年は2、3匹がきまって餌を食べに来ます。前に博物館でしらべたところ、縞栗鼠でも台湾栗鼠でもなく、北栗鼠らしいです。餌はドングリ、椎の実、パン屑、リンゴの皮です。長年になるのに、仲々警戒心がつよく、主人の手から一匹だけ餌をとる位です」(藤沢市片瀬)。

情報②。「リスの姿を見るのはもう10年以上前からで、今は庭のえさ台におくパンの耳等に食べに殆ど毎日、時間は早朝から3時頃までに1匹、或は2匹で来ます。猫が草むらにひそんでいまして、樹の上から威嚇しています。春には小さいリスも来ます。家から住宅伝いに、或いは向い側の小学校ぎわの電線を伝わって山へ帰るようです」(御成町)。

情報③。「小生宅の庭には野鳥のエサをやる目的で餌台を作っております、冬季には毎日エサを置くことにしておりますが、近年、これがリスに占領される結果となり、このため、1～3月はエサをピーナッツ等、リスの好みそうなものにしていまして、冬季は毎日多数のリスが来てくれます。現在まで確認した最大数は同時に5匹でした。3～4匹は毎日です。時刻はエサを与えるのが8～9時頃で、その頃にはすでに庭で待っておりますし、エサを食べつくす午前中は常に何匹かが入れ替り、立ち替りという状態がづきます」(山ノ内)。

この外に、餌づけしている方々から、次のような興味ある情報が寄せられている。①冬になるとガラス戸を叩き餌をねだる(1件)、②餌をねだって雨戸を叩く(3件)、③俳壇に入って、そなえ物を食べる(1件)、④郵便受けに餌を運ぶ(1件)、⑤小さなビワをどこかえ運んでしまう(1件)、⑥洗たく物を汚す(1件)、⑦手を打つと、どこからなくともやってくる(1件)、⑧ハンド・バックを開けておくと、その中に入りなかなかであろうとしない(1件)。

また、4、5年前から餌づけをしているか、なかなか餌づかないという情報も1件寄せられている。

食物

食物については25件の情報が寄せられた。

情報①。「特に多く見かけるのは冬、山に木の実などなくなるのでしょうか、庭の甘夏みかんがなる1月から3月頃までが一番多く見られます。庭にはみかんの木が3本とゆずなどがありますが、これが殆どリス

の餌となっています。食べ方はみかんを木から落さないように、下から穴をあけるように、中を上手にくりぬいて食べ、皮をまるく残しますので横からみると、みんな穴をあけられて、ガランドウになっています。落ちないように上手に食べるのには感心しています。そんなわけで、冬えさのなくなる頃が一番多く出沒します。最近はなれてしまい、人がいても逃げなくなりました。うちではミカンドロボウが又来ているなんて云っていますが、家になる甘夏、ハッサクは殆どリスにもたべさせています」(極楽寺)。

今回寄せられた情報から得た食物の種類は次のようなものであった。カキ、ピーナツ、ビワ、ユズ、カヤ、ツバキの実、ナツミカン、松の実、ハッサク、キンカン、ミカン、モモ、ソルダム、アンズ、クルミ、ドングリ、リングなどの果実や種子類のほかに、木の皮、甘い物、雑飯、花の球根、パンの耳、花などである。

被 害

前に述べた朝日新聞の記事は「鎌倉の緑豊かな森にタイワンリスが大繁殖して、電話線ケーブルをかじるため、不通や混線事故が続出している。電電公社は、ケーブル内に束ねて収納している配線(芯線)の絶縁被覆を、紙からポリエチレンに替えたり、さらにスチール入りケーブルに張り替えるなど被害防止に懸命だが、リスの生息地は年々広がっており、電話線被害だけではなく、一帯の動植物の生態系を壊すのではないかと心配する声も出はじめている」と報じている。

今回の調査では4件の被害情報が寄せられている。情報①。「私の家は、県立近代美術館の前にあります。10年来タイワンリスが出沒し、庭のユズ、ソルダムなどのなりものを食べ荒れて困っています。山を背負う地形のため、木が多く、住みついているものと思われれます」(雪ノ下)。

情報②。「どの位いるかわかりませんが、夜でも昼でも歩き廻り、花でも実でも、冬などは椿の幹までかじり大変被害を受けております。わが家では愛すべき

小獣というわけにはゆかず、なにかよい退治する方法はないかと少々閉口しております」(山ノ内)。

これ以外に、「①洗たく物を汚されるので昼間干すことができない。②ミカンやモモがやられてしまう。③家の中まで入ってきて台所を荒す。④カキをリスとカラスにやられてしまう。⑤餌づけをしているので仕方がないが、戸袋はくいやぶられるし、木の皮をはいでしまう」などの情報が寄せられている。

タイワンリスの繁殖によって、鎌倉の動植物の生態系が破壊されているというほどの被害は、いまのところ見られないが、いくつかの地域で上記のような実害のあることは確かである。タイワンリスは、まだ愛すべき小獣として市民に扱われているが、害獣化するかどうか注目すべき問題である。

おわりに

鎌倉市に生息しているタイワンリスの情報を新聞紙上をかりて集め、その結果を一応、ここにまとめてみた。特に注目すべきことは、現在生息している地域に隣接していながら、いまだに生息が確認されていない逗子市や横浜市西部地域に、分布を拡大するかどうかである。今後、その推移を見守りたい。

文 献

- 朝日新聞 1984, 「もしもし」不通, かわいい犯人, リスが電話線かじる. 東京.
- 今泉吉典 1949, 日本哺乳動物図説. 洋々書房, 東京.
- 今泉吉典 1960, 原色日本哺乳類図鑑. 保育社, 大阪.
- 岩波由香・谷川和子 1981, 姫山公園におけるタイワンリスの行動域. 鳥と自然, (23): 7-10, 兵庫野鳥の会.
- 小林峯生 1983, タイワンリス. 鎌倉朝日. 50号.
- 中村一恵 1977, タイワンリスに寄食するヒヨドリ. 野鳥, 40(12): 648-653.
- 小原秀雄 1972, 日本の動物辞典 P. 402 三省堂.